



はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君は店長の初孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。



はじめ君はよう君と、とても仲良しです。そして、よく面倒をみてくれます。よう君が夜泣きで起きると、背中をポンポンと叩いてあげるそうです。このまま、やさしくて強い男になって欲しいなあ～(^\_^)v

友人が銀座にあるアンテナショップ「まるごと高知」でゆずの香りがするたまご「ゆずたまご」を買いました。「高知の特産品になるような商品を作ろう」という思いから2013年

8月に高知県馬路村産のゆずの皮を加工した粒を鶏の餌に混ぜて、開発に成功した商品です。

「ゆずたまご」の最大の特徴である「馬路村産ゆず」を最大限に活かす為に、従来、飼料や水に添加する一般的な手法と大きく違う方法で商品化しています。卵

の持つ独特の生臭さを大きく軽減させ、さわやかなゆずの香りをまとめすことに成功し、旨味、甘味、コク、香りの相乗効果で食欲をかきたてます。

栄養価が高く、ビタミンC、ミネラルを多く含みます。ゆずを食べさせることにより、ほのかな甘味が生まれました。「食べた～い！」

「卵を割った瞬間、ほのかなゆずの香りがします。別にゆずの味がするわけではありませんが、卵かけご飯がメッチャうまいんです！しかも、味付けは醤油じゃなく、塩」もう、普通の卵には戻れないと言っていました。高知のヤマサキ農場スゴイ！なのですが…、ここからがコワ～イお話しです。ここからあなたと一緒に考えましょう！

卵を産む鶏は、ひよこの時からエサを食べて育ちます。その香りの成分は、オスまたはメスが食べたエサに由来するということになります。

ゆずは天然成分ですから問題はありません。でも、これが化学物質だったらどうでしょう!? ヤマサ農場の卵は、1個60円します。時々スーパーなどで、10個88円で売られる卵は、どのように生産するのでしょうか?ある養鶏場の例ですと、30cm四方を金網で仕切られた中に鶏が3羽ずつ、身動きが取れない状態で入れられ、鶏同士がストレスにより殺しあわないようにデピーク(ひよこの時に口ばしを折る)処理がされています。



更に、鶏には病気になって死んで元も子もないので、大量の抗生物質、成長ホルモンなどの薬物もエサに混ぜているのです。これは、鶏だけでなく牛や豚、養殖の魚などでも同じです。10年位前に順天堂大学の免疫学の世界的権威である、奥村康先生の話思い出します。「背を伸ばしたかったら、米国産の赤肉を食べなさい。成長ホルモン剤が半端なく入ってますから…」と冗談で話されていました。

ペットボトルのお茶をよく飲みませんか? ボクはやめました。世界のミツバチを全滅に追い込んでいる新農薬があります。それが「ネオニコチノイド」農薬名「アセタミプリド」です。これは、神経毒性のある新型殺虫剤です。主に茶類、ブドウ、イチゴを栽培するときに使用されるようです。EU基準の300倍も残留農薬としてペットボトルのお茶に入っている恐れがあります。

ゆずたまごの話聞いた時に思ったことがあります。近年、食物アレルギーの方が増えています。特に子供に多い。これは、食べ物せいではなく、食べ物に含まれる薬剤のせいではないかと…?知らぬうちに食べ物から入る薬剤や、ミネラルを排出してしまう添加物などが原因と考えられるからです。よう君は母乳で育っています。ある日、顔に湿疹ができました。母親に輝源を3日間100ml飲ませたらきれいになつてしまいました。口に入る物で良いことも悪いことも身体に起きます。常に免疫力を高め、ミネラル補給と解毒しかないのでしょうか? 厳しい基準が求められます!(-\_-)(\*\_^\*\_)